

恵教郷第 41 号  
令和 6 年 4 月 23 日

内閣総理大臣 殿

恵庭市長  
原田 裕  
(公印省略)

アイヌ施策推進地域計画 事後目標評価報告書

アイヌ政策推進交付金事業実施要綱（令和元年 9 月 6 日付け府ア推第 5 号）第 3 条第 3 項に基づき、アイヌ施策推進地域計画の事後評価結果について別紙のとおり報告します。

アイヌ施策推進地域計画 事後目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
恵庭市	恵庭市アイヌ施策推進地域計画	令和 5 年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における 目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備考
「アイヌ墓副葬品等保管室設置事業」において恵庭アイヌ協会が慰霊祭を開催する（アイヌ文化の保存又は継承に資する事業）	開催	開催	100%	
「アイヌ文化マスター育成事業」における中高生の参加人数（地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業）	6 人	6 人	100%	

アイヌ施策推進地域計画における 目標	達成状況	備考
「アイヌ墓副葬品等保管室設置事業」において恵庭アイヌ協会が慰霊祭を開催する（アイヌ文化の保存又は継承に資する事業）	目標を達成した	
「アイヌ文化マスター育成事業」における中高生の参加人数（地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業）	目標を達成した	

<p>(コメント)</p> <p>アイヌ墓副葬品等保管室設置事業については、令和 5 年度にアイヌ御遺骨安置木製棚が完成したことで、恵庭アイヌ協会が御遺骨と副葬品の地域返還を受け、慰霊祭を開催することが出来た。</p> <p>アイヌ文化マスター育成事業については、募集人数 6 名に対して 8 名の応募があった。市内の中高生一人ひとりに募集要項を配布してきたことで、目標値を達成することが出来た。</p>
--

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ墓副葬品等保管室設置事業は、令和3年度にアイヌ墓の副葬品等を適切に保管するため、間仕切りした部屋に加除湿機能のあるエアコンとスチール製の棚を設置した。また令和5年度にはアイヌ彫刻が施された木製棚を設置し、恵庭アイヌ協会が地域返還を受けた御遺骨と副葬品を適切に保管している。令和5年10月15日には、恵庭アイヌ協会主催の慰霊祭を開催し、恵庭市も協力した。	恵庭市
事業の効果	
令和3年度に副葬品等を適切な温湿度で保管できるよう整備し、令和5年度にはアイヌ御遺骨安置木製棚を作製した。これにより、恵庭アイヌ協会が地域返還を受けた御遺骨と副葬品を安置し、恵庭アイヌ協会主催の慰霊祭を開催することができ、尊厳ある慰霊の実現と慰霊に関する伝統文化の保存・継承ができた。	

(2) 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化マスター育成事業は、市内在住の中高生に対してアイヌ文化について学び、恵庭市の多文化共生社会の実現を目指すことを目標としている。	恵庭市
事業の効果	
令和3年度は4名の中学生が参加した。令和4年度以降は6名の中学生が参加し、中には複数年連続で参加する中学生もいた。単発の講座ではなく、年間8～9回の講座や研修、体験等を行うことで、アイヌの歴史や文化を深く学習することにつながった。	

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化学習見学会事業は、令和3年度は1回（だて歴史文化ミュージアムと国立アイヌ民族博物館）、令和4年度は2回（1回目：平取町と新ひだか町のアイヌ文化関連施設、2回目：国立アイヌ民族博物館）、令和5年度は1回（旭川市と鷹栖町のアイヌ文化関連施設）の見学会を実施した。	恵庭市
事業の効果	
令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、定員を25名とし、23名が参加	

した（2名はキャンセル）。令和4年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、定員を25名とし、2回実施した。1回目は25名、2回目は14名が参加した。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が終息しつつあると判断し、定員を40名とし、35名が参加した（5名はキャンセル）。いずれの見学会も現地の学芸員や担当者等に解説をいただくことにより、アイヌの歴史や文化に対する理解の促進及び普及啓発につながった。

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>アイヌ文化講演会事業は、令和5年度から開始した事業である。初年度である令和5年度は文化庁調査官である内田氏に「松浦武四郎が記した幕末の恵庭」についてご講演いただいた。</p>	<p>恵庭市</p>
<p>事業の効果</p>	
<p>令和5年度は、59名が参加した。広報に掲載後、市民からの問い合わせが何件もあり、大変注目された。講演では、恵庭の地に来た松浦武四郎が見たと考えられる場所について等をお話しいただき、アイヌの歴史や文化に対する理解の促進及び普及啓発につながった。</p>	

### 3. 今後の方針等

(コメント)

各種事業について、最終目標を達成することができた。しかし、アイヌ文化マスター育成事業及びアイヌ文化学習見学会事業は令和3年度から開始し、アイヌ文化講演会事業は令和5年度から開始するなど、取り組み期間が短く十分ではないため、市民全体にアイヌ文化への関心が広く浸透してはいない。そのため、アイヌの歴史や文化に対する理解の促進及び普及啓発につながるよう、令和6年度からはムックリ製作体験事業を開始するなど、実施内容等を充実させ、事業参加者の増加を目指す。